

一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center

年報

第2号

2014.4~2015.3





# 一般財団法人 黎明郷 理念

質の高い医療・リハビリテーションを実践し、  
地域社会の保健医療福祉に貢献します。

## 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 基本方針

- ◆地域に開かれた病院として脳卒中医療に貢献します。
- ◆活発な地域連携（病病連携・病診連携）を展開します。
- ◆最新かつ最適な医療とリハビリテーションを提供します。
- ◆チーム医療により自立への支援に努めます。
- ◆安全に配慮し、快適な入院環境作りを目指します。
- ◆最新の脳卒中医療情報を発信します。



## 目 次

巻頭言	院長 保嶋 実	1
施設概要・沿革		2
機構図		3
役員名簿（理事・監事）		4
評議員名簿		5
職員数		6
診療実績（入院患者数等、検査件数）		7
脳ドック・訪問リハビリ実績		9
研修認定施設		10
専門医数		11
治験実績		12
実習受入状況		13
財団事業		14
青森県高次脳機能障害支援拠点機関		14
青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター		15
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会		17
脳卒中市民公開講座		18
黎明郷リハビリテーションケア勉強会		19
学術報告		20
学会発表		20
依頼講演		24
論文		30
委員会報告		32
医療安全委員会		32
院内感染防止対策委員会		35
栄養管理委員会		37
褥瘡対策委員会		39
臨床検査適正化検討委員会		41
薬事審議委員会		43
電子保存システム管理委員会		45
DPCコーディング委員会		47
倫理委員会		48
衛生委員会		50
部署代表者委員会		52
教育研修委員会		54
施設運用委員会		56
広報委員会		58
患者サービス委員会		60
ワークライフバランス推進委員会		62
NST		63
ICT		65
脳ドックワーキンググループ		67
口腔ケアワーキンググループ		68
編集後記	広報委員長（副院長） 岩田 学	69



## 巻 頭 言

---

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター  
院 長 保 嶋 実

平成27年6月に弘前脳卒中・リハビリテーションセンター（以下センター）年報第1号（平成23年度—平成25年度）が発刊され、ほぼ半年を経て年報第2号（平成26年度）が完成しました。次の年報第3号（平成27年度）からは、時宜を得た定期発刊の予定で広報委員会を中心に着々と準備が進められています。

平成26年度はセンター開設4年目で、公益法人制度改革で発足した運営母体である「一般財団法人黎明郷」としては2年目を迎えた年でもあります。脳卒中救急患者受け入れなどの診療実績は概ね例年通りに推移しています。8月からは回復期病棟に医師を含めて専従スタッフを配置し、体制強化加算の算定とともに病棟機能の一層の充実・向上が図られました。また、脳血管内治療として取り組みを始めた頸動脈ステント留置術は10件の実績を挙げています。さらに平成25年10月から開始した脳ドックは年間124件に達しました。脳卒中専門医も4名となり、2名の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の誕生とともに、脳卒中専門病院としての機能強化そして人材の育成が着実に進められています。一方、市民公開講座の再開、黎明郷リハビリテーションケア勉強会の継続した開催、そして宿願の脳卒中学領域のトップジャーナル「Stroke」誌への論文掲載など、地域社会への貢献や世界への情報発信の緒についた年でもありました。

年報に記載されている事項特に数値は現在のセンターの診療や情報発信の現況を示す指標であり、問題点の分析と改善に向けての貴重な資料となるものがあります。今後に向けて、十分に吟味し、活用されることを願っています。

年報の作成を担当した広報委員会の岩田 学委員長はじめ、各委員諸氏の労に敬意を表したいと存じます。

## 施設概要

年 月	内 容
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 地面積 19,872.80 m <sup>2</sup> 建築延面積 11,414.94 m <sup>2</sup> 一般病床 35床 回復期リハビリテーション病棟 110床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科
平成23年 4月	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設（名称変更）（248床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 敷地面積 25,828.95 m <sup>2</sup> 建築延面積 18,579.55 m <sup>2</sup> 一般病床 79床 回復期リハビリテーション病棟 169床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、歯科
平成25年 4月	診療科目変更 脳・血管内科、循環器内科、内科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、放射線科、歯科

## 沿革

年 月	内 容
昭和41年 4月	青森県知事より財団法人黎明郷の設立認可
昭和41年 7月	碓ヶ関村より診療所の委託を受け診療を開始（10床）
昭和42年 4月	黎明郷リハビリテーション病院開設（60床、昭和57年7月248床）
昭和60年 9月	黎明郷リハビリテーション病院に高血圧センター併設
平成15年 4月	黎明郷リハビリテーション病院に介護老人保健施設つがるを併設
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145床）内科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・整形外科
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院（103床）となる
平成23年 4月	弘前脳卒中センターと黎明郷リハビリテーションを統合し、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターを開設（248床） 開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院は廃止 碓ヶ関診療所（無床）を開設
平成24年 3月	碓ヶ関診療所廃止
平成25年 4月	一般財団法人へ移行



## 役員名簿

平成26年4月1日現在

氏名	職業又は勤務先	区分
保嶋 実 (理事)	一般財団法人 黎明郷	理事長
中野 撃司 (理事)	青森県町村会代表	鶴田町長(行政)
長尾 忠行 (理事)	老健つがる設置地域代表	平川市長(行政)
奥村 謙 (理事)	弘前大学大学院医学研究科	循環呼吸腎臓内科学講座 教授(医療)
長内 智宏 (理事)	弘前大学大学院医学研究科	循環呼吸腎臓内科学講座 准教授(医療)
玉田 友一 (理事)	玉田内科医院 院長(秀峰会代表)	(医療)
建部 礼二 (理事)	(株)青森銀行常務取締役	(経営)
三浦 康久 (理事)	元青森県健康福祉部長	(行政)
佐藤 陽子 (理事)	元青森県環境保生活部長	(行政)
小林 正志 (理事)	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター	事務部長
小野寺 昭生 (監事)	(株)青森銀行弘前支店長	
鳴海 溜喜子 (監事)	税理士	

評議員名簿

平成26年4月1日現在

氏 名	職業又は勤務先	区 分
吉岡 利忠	弘前学院大学 学長	教育
込山 稔	特別養護老人ホーム 弘前大清水ホーム 施設長	福祉
梅村 芳文	梅村医院 院長	医療（弘前市医師会）
畑山 亨	畑山医院 院長	地域医療
葛西 聡	あすなろ法律事務所 弁護士	学識経験者（法律）
奈良岡 勇造	城東地区	地域代表（福祉）
久保田 安喜男	豊田地区町会連合会 会長	地域代表
横山 篤	介護老人保健施設つがる 施設長	医療（介護）
松本 茂男	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（リハビリ）
鎌田 孝篤	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（内科）
岩田 学	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（治験・リハビリ）
三國谷 恵美子	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護部長	看護

## 職員数

※過去3か年分について掲載

職 種	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
医 師	16	16	15
薬剤師	8	7	7
診療放射線技師	8	7	6
臨床検査技師	7	6	7
作業療法士	55	60	58
理学療法士	52	56	54
言語聴覚士	14	10	10
医療相談員	7	7	8
医療部助手	0	1	1
管理栄養士	3	3	2
看護師	139	149	159
准看護師	23	24	19
看護助手	28	27	33
歯科衛生士	1	1	1
事務員	29	28	29
営繕担当	4	3	3
合 計	394	405	412

各年4月1日現在

診療実績 入院患者数

※過去3か年分について掲載

		H24年度	H25年度	H26年度
延患者数（人）		80,330	76,125	79,166
病床数		248	248	248
病床稼働率（％）		88.7	84.0	87.4
平均在院日数（日）	一般病棟	15.5	14.1	17.1
	回復期病棟	62.5	61.1	68.9
<b>新患受入件数（件）</b>				
	a. 救急車	599 (27%)	649 (32.5%)	639 (31.5%)
	b. 直接来院	1,620 (73%)	1,345 (67.5%)	1,387 (68.5%)
※ c. 救急車受入のうち入院（件）		523	564	533
(c/a)		(87.3%)	(86.9%)	(83.4%)
<b>一般病棟指標</b>				
在宅復帰率		—	—	80.4%
医療・看護必要度 重症者割合		28.0%	28.3%	20.7%
<b>回復期リハビリテーション病棟指標</b>				
在宅復帰率		79.7%	78.8%	80.4%
新規入棟患者重症者割合〔A項目〕		24.9%	28.9%	15.5%
新規入棟患者重症者割合〔B項目〕		49.3%	46.9%	46.0%
重症患者回復割合（退棟時）		69.1%	65.8%	59.6%
回復期病棟延患者数（人）		55,457	53,789	55,720
実施リハ単位数		359,028	367,158	371,260
一日一人当たりリハ提供単位数		6.47	6.83	6.66
脳卒中地域連携パス適用患者数（H25年9月～）		—	7	21

診療実績 検査件数

※過去3か年分について掲載

		H24年度	H25年度	H26年度
MR I		4,253	4,261	4,584
C T		3,410	3,449	3,841
超音波	頰動脈	1,224	1,226	1,347
	心臓	1,135	1,083	867
	経食道心臓	386	477	466
	その他	97	131	49
	合計	2,842	2,917	2,729
A B I (脈波)		956	858	979
ホルター心電図		1,027	936	964
血管造影	脳血管造影	—	16	28
	頭頸部血管造影	—	12	16
	心臓カテーテル検査	—	7	10
	上肢血管造影	1	—	—
	C Vカテ修正	—	1	—
	C Vカテ挿入、交換	5	5	3
	ペースメーカー移植・交換術	3	1	4
	頰動脈ステント留置術	—	—	10
	下大静脈フィルタ留置術	—	—	1
合計		9	42	72
透視下検査	嚥下造影	89	71	62
	C Vカテ修正	—	2	1
	C Vカテ挿入、交換	16	12	8
	イレウス管位置修正	1	—	—
	イレウス管挿入	1	—	—
	右胸腔トロッカーカテーテル挿入	1	—	—
	経鼻胃管チューブ挿入	6	8	17
	上部消化管造影	—	1	1
	透視のみ	2	1	3
合計		116	95	92
内視鏡	内視鏡下胃瘻造設術	73	78	14
	胃瘻交換	141	128	78
	S状結腸(大腸ファイバースコープ)	1	—	—
	胃・十二指腸ファイバースコープ	29	18	10
	直腸ファイバースコープ	—	1	—
合計		244	225	102
気管切開術		2	4	1

## 脳ドック実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	—	—	—	—	—	—	1	2	0	0	3	1	7
26年度	1	6	14	18	12	14	12	12	12	10	6	7	124

※平成25年10月より施行

## 訪問リハビリ実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24年度	68	88	101	121	134	110	105	103	90	73	89	107	1189
25年度	110	133	136	169	145	151	180	194	185	168	185	190	1946
26年度	182	180	154	158	136	166	194	179	185	153	149	152	1988

## 研修認定施設

	認 定 学 会	認 定 期 間
1	日本脳卒中学会認定教育病院	2013. 4. 1～2014. 12. 31 2015. 1. 1～2016. 12. 31
2	日本リハビリテーション医学会認定研修施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31
3	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設	2014. 4. 1～2019. 3. 31
4	日本高血圧学会専門医認定施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31
5	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	2013. 4. 1～2015. 3. 31

専門医数

単位：人

資 格	計
日本高血圧学会認定専門医	1
日本循環器学会認定循環器専門医	5
日本腎臓学会腎臓専門医	1
日本内科学会総合内科専門医	3
日本臨床検査医学会臨床検査専門医	1
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	4
日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医	1
日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医	2
合 計	15

平成27年3月31日現在

治験実績

年度	内 容
平成 26 年度	虚血性脳血管障害患者を対象とした CS-747S（プラスグレル塩酸塩）の既存治療対照第Ⅲ相二重盲検比較試験
2 件	脳卒中後の上肢麻痺患者を対象とした HC-58 の第Ⅱ相臨床試験-プラセボを対照とした無作為化二重盲検比較試験

## 実習受入状況

※過去3か年分について掲載

平成 24 年度	医局	看護部	リハビリテーション部			栄養室	全体
			P T	O T	S T		
延件数 (単位：件)	2	17	20	10	5	2	56
延人数 (単位：人)	46	938	598	548	230	16	2376

平成 25 年度	医局	看護部	リハビリテーション部			栄養室	全体
			P T	O T	S T		
延件数 (単位：件)	3	18	22	11	6	1	61
延人数 (単位：人)	94	1015	581	450	230	12	2382

平成 26 年度	医局	看護部	リハビリテーション部			栄養室	全体
			P T	O T	S T		
延件数 (単位：件)	3	20	20	12	8	1	64
延人数 (単位：人)	98	941	507	373	322	6	2247

財団事業(青森県委託事業)  
 青森県高次脳機能障害支援拠点機関  
 平成26年度事業活動報告

1. 青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会

開催日時：平成26年9月20日(土) 13:30～16:30

開催場所：アピオあおもり 2階

参加者：75名

講演1

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 岩田 学 先生

『青森障害者職業センターの支援サービスについて』

講師：青森障害者職業センター

主任障害者職業カウンセラー 高橋 真也 先生

講演2

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 松本 茂男 先生

『高次脳機能障害者の社会参加』

講師：川崎医科大学 リハビリテーション医学

准教授 平岡 崇 先生

2. 青森県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業検討委員会

開催日時：平成26年7月22日(火) 17:15

開催場所：青森国際ホテル 2階 高砂の間

出席者：12名

案件

1. 平成25年度事業報告について

2. 平成26年度事業計画について

3. 相談内容

相談件数	相談者		
	本人	家族	その他
	11	7	48
就労支援	3	0	0
診断・治療	8	4	44
支援体制・家族会	0	1	2
その他	0	2	2

## 財団事業(青森県委託事業)

### 青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター

#### 平成26年度事業活動報告

#### 1. 広域支援センターに対する支援

##### (1) 平成26年度リハビリテーション支援センター、広域支援センター合同研修会

###### ◆研修会テーマ：『嚥下障害へのアプローチの実際』

###### ◆研修会内容

###### ◇講義

- ・講義1 『摂食・嚥下障害を理解するために』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター副院長 松本 茂男 先生

- ・講義2 『嚥下障害と食物の調整』(第1、2、3回)

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

リハビリテーション部技師長 三浦 順子 先生

###### 『口腔内のトラブルと口腔ケア』(第4回)

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

歯科衛生士 小堀 文美子 先生

###### ◇ワークショップ

講師 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター言語聴覚士

- 1) 増粘剤の使用実習と嚥下食試食
- 2) 評価実習
- 3) 事例検討
- 4) 検討結果まとめ

###### ◆第1回研修会の開催

青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、青森圏域広域支援センター合同研修会

開催日時：平成26年6月14日(土) 13:30～16:00

開催場所：青森市民病院 3階 大会議室(青森市)

参加人数：55名

###### ◆第2回研修会の開催

青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、上十三圏域広域支援センター合同研修会

開催日時：平成26年8月24日(日) 9:30～12:00

開催場所：十和田市立中央病院 別館2階 講堂(十和田市)

参加人数：32名

###### ◆第3回研修会の開催

青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、西北五圏域広域支援センター合同研修会

開催日時：平成26年10月25日(土) 9:30～12:00

開催場所：つがる総合病院 1階 大ホール(つがる市)

参加人数：49名

#### ◆第4回研修会の開催

青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、津軽圏域広域支援センター合同研修会

開催日時：平成27年3月14日（土）9：30～12：00

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2階 大会議室（弘前市）

参加人数：42名

#### (2) 講師の派遣（言語聴覚士）

津軽圏域広域支援センターより依頼

開催日時：平成27年3月18日（水）17：30～18：30

開催場所：大鰐温泉介護センターあぜりあ（大鰐町）

内 容：『摂食困難者に対するアプローチのヒント』

#### 2. 地域における環形団体及び関係医療機関との連携のための連絡調整

##### (1) 平成26年度第1回青森県、支援センター、広域支援センター連絡会議

開催日時：平成26年10月10日（金）14：00～15：20

場 所：ウェディングプラザアラスカ（青森市）

##### (2) 平成26年度第2回青森県、支援センター、広域支援センター連絡会議

開催日時：平成27年3月13日（金）14：30～16：00

場 所：ウェディングプラザアラスカ（青森市）

#### 3. オブザーバー出席

平成26年度青森県リハビリテーション協議会

日 時：平成27年2月9日（月）14：00～15：30

場 所：ウェディングプラザアラスカ（青森市）

出席者：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 事務部長 小林 正志

#### 4. 連携のための職員派遣

平成26年度津軽圏域連絡協議会

日 時：平成26年7月1日（火）14：00～15：00

場 所：弘前市立病院 別館2階 指導室

派遣職員：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 医療相談室長 土岐 敏子

財団事業(事務局)  
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会  
平成26年度事業活動報告

青森県成人・老人リハビリテーション施設協会研修会

開催日時：平成26年10月31日(金) 18:00～19:00

開催場所：リンクステーション青森（青森市文化会館）4階 中会議室

参加者：病院、老健、特養等職員100名

講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長 岩田 学 先生

『摂食嚥下リハに役立つ食形態とその選び方』

講師：独立行政法人国立国際医療研究センター リハビリセンター科医長 藤谷 順子 先生

財団事業(主催)  
脳卒中市民公開講座  
平成26年度事業活動報告

「センター開設10周年記念 脳卒中市民公開講座」

開催日時：平成26年10月5日(日) 14:00～16:00

開催場所：弘前市民文化交流館 大ホール(ヒロロ4F)

参加者：118名

テーマ『あたりかも・・・その時あなたは どうしますか?～脳卒中の早期発見と早期治療のお話』

1. 講演

講演1

『脳卒中の初期症状を知って早めの受診を』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター  
内科副部長 目時 典文 先生

講演2

『脳卒中のリハビリは早めに手厚くが重要』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター  
副院長 岩田 学 先生

講演3

『脳ドックでわかること』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター  
脳神経外科部長 内沢 隆充 先生

2. パネルディスカッション

3. その他

- ・病院スタッフによる相談コーナーの設置
- ・脳卒中疑似体験、ABI検査コーナーの設置

財団事業(主催)

黎明郷リハビリテーションケア勉強会

平成26年度事業活動報告

第4回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

開催日時：平成26年11月21日(金) 18:00～19:00

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参加者：病院、老健、特養等職員55名

講演：「脳卒中の病態と予防」～そもそもなぜ脳卒中になるのか！？～

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科副部長 目時 典文

学術報告－全国学会

	年 月 日	学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 26 年 5 月 21 日 ～ 5 月 23 日	第 42 回日本血管外科学 会学術総会	DVT 早期発見・PTE 発症予防～技 師からのアプローチ～	乗上 綾子
2	平成 26 年 5 月 30 日 ～ 6 月 1 日	第 49 回日本理学療法学 術大会	在宅における運動プログラム継続 に対するセルフ・エフィカシーへの 介入の影響-第 2 報-	安藤 道晴
3	平成 26 年 5 月 30 日 ～ 6 月 1 日	第 49 回日本理学療法学 術大会	脳卒中患者に対する歩行観察と身 体機能の関係について	奈川 英美
4	平成 26 年 6 月 4 日 ～ 6 月 7 日	第 51 回日本リハビリテーシ ョン医学会学術集会	当院でのボトックス療法の現状-訪 問リハ等の利用、患者・家族の満 足度、合併症の面からの検討	松本 茂男
5	平成 26 年 6 月 4 日 ～ 6 月 7 日	第 51 回日本リハビリテーシ ョン医学会学術集会	脳卒中後肩手症候群に対する早 期ステロイド内服治療が麻痺側上 肢機能と ADL の回復へ及ぼす影 響	岩田 学
6	平成 26 年 6 月 6 日 ～ 6 月 7 日	第 1 回日本心血管脳卒中 学会学術集会	脳梗塞を繰り返し、抗凝固療法で 消失した左房内球状浮遊性血栓 の 1 例	萩井 護士
7	平成 26 年 6 月 6 日 ～ 6 月 7 日	第 1 回日本心血管脳卒中 学会学術集会	経食道心臓超音波検査における 心内モヤモヤエコーの検出は発作 性心房細動を原因とする心原性塞 栓症の診断に有用である	齋藤 新
8	平成 26 年 6 月 7 日 ～ 6 月 8 日	第 4 回日本訪問リハビリテ ーション協会学術大会 in 熊本	復職に際してバスを利用できること を目標として実施した訪問作業療 法について	金谷 圭子
9	平成 26 年 6 月 17 日 ～ 6 月 21 日	第 16 回世界作業療法士 連盟大会 第 48 回日本作業療法学 会	脳卒中後抑うつ症状と運動麻痺の 重症度との関連	佐藤ちひろ
10	平成 26 年 6 月 28 日 ～ 6 月 29 日	第 11 回日本口腔ケア学会 総会・学術大会	脳卒中患者における口腔ケアアセ スメントの経過	池上 友紀子
11	平成 26 年 9 月 6 日 ～ 9 月 7 日	第 20 回日本摂食嚥下リハ ビリテーション学会学術大 会	嚥下調整食 4 作成に向けての取り 組み	宮川 具子
12	平成 26 年 9 月 27 日 ～ 9 月 28 日	第 24 回日本医療薬学会 年会	当院における注射用抗菌薬の使用 状況について	久米田 一喜
13	平成 26 年 10 月 12 日 ～ 10 月 13 日	第 8 回日本腎臓病薬物療 法学会学術集会・総会 2014	当院における新規凝固薬 3 剤の入 院中の治療継続率について	鳥谷部 翔

14	平成 26 年 11 月 6 日 ～ 11 月 8 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会長崎 2014	当院における転倒防止に対する取 り組み-転倒シミュレーションの効果 の検証-	今井 寛人
15	平成 26 年 11 月 6 日 ～ 11 月 8 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会長崎 2014	当院の入院患者における転倒・転 落に対するスタッフの意識調査～ アンケート調査から見えてきた課題 と改善策～	渡邊 有紀子
16	平成 26 年 11 月 6 日 ～ 11 月 8 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会長崎 2014	排泄介助方法の統一が排泄自立 までの期間に与える影響	小向 雅哉
17	平成 26 年 11 月 6 日 ～ 11 月 8 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会長崎 2014	当院におけるリハスタッフの吸引行 為導入への取り組みと課題	中村 学人
18	平成 26 年 11 月 6 日 ～ 11 月 8 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会長崎 2014	脳卒中患者の口腔ケア-歯磨き自 立者に対する継続的指導の効果-	外崎 葵
19	平成 27 年 2 月 12 日 ～ 2 月 13 日	第 30 回日本静脈経腸栄 養学会学術集会	脳卒中急性期における筋肉量の 変化について	今井 真子
20	平成 27 年 2 月 27 日 ～ 2 月 28 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 25 回研究大 会 in 愛媛	疑似体験を取り入れた研修の効果 ～高齢者の視覚に焦点をあてて～	金崎 真紀子
21	平成 27 年 2 月 27 日 ～ 2 月 28 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 25 回研究大 会 in 愛媛	身体抑制ゼロへ向けた取り組み～ セラピストと連携して～	大川 麻美
22	平成 27 年 2 月 27 日 ～ 2 月 28 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 25 回研究大 会 in 愛媛	私服で過ごそう!『患者』から『生活 する人』へ～更衣のしている ADL 向上にむけて～	増田 由貴
23	平成 27 年 2 月 27 日 ～ 2 月 28 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 25 回研究大 会 in 愛媛	当回復期病棟で実施している『ミニ カンファレンス』に対する意識調査	田中 秀一
24	平成 27 年 2 月 27 日 ～ 2 月 28 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 25 回研究大 会 in 愛媛	新たな嚥下調整食の作成と食事指 導への取り組み	阿部 麻菜美
25	平成 27 年 2 月 27 日 ～ 2 月 28 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 25 回研究大 会 in 愛媛	高齢者世帯の介護力不足を補うイ ンフォーマルサポートの調整につ いて	竹中 牧子
26	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	脳卒中患者における摂食障害と認 知症の関係	福士 涼子
27	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	「脳卒中教室」患者教育効果に関 する検討	福士 裕紀
28	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	新人研修から明らかになった啓蒙 活動の課題	横濱 岳

29	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	NOAC を簡易懸濁法から粉碎1包 化調剤へ変更後に脳梗塞再発が 疑われた 1 例に対する調剤法の検 討	鳥谷部 翔
30	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	急性期心原性脳塞栓症における 梗塞領域と予後に関する検討	白戸 弘志
31	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	心原性脳塞栓症患者における脳 梗塞体積ならびに D-dimer 値の機 能予後予測における有用性	白戸 弘志
32	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	心内モヤモヤエコーと左心耳径の 拡大は心原性脳塞栓症の原因で ある発作性心房細動の存在を示唆 する	齋藤 新
33	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	脳卒中救急患者における糖尿病 の病前治療状況	目時 典文
34	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	穿通枝領域梗塞に対する t-PA 静 注療法の効果	目時 典文
35	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	超高齢心原性脳塞栓症患者の臨 床的特徴	萩井 護士
36	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	Rivaroxaban 服用後の血中濃度、 プロトロンビン時間、凝固分子マー カーの推移の検討	萩井 護士
37	平成 27 年 3 月 26 日 ～ 3 月 28 日	第 40 回日本脳卒中学会 総会	cNWCT 画像による脳血液量評価	内沢 隆充

学術報告－地方学会

年月日	学会・研究会名	発表演題	主演者名
1 平成 26 年 6 月 7 日	第 158 回日本循環器学会 東北地方会	侵襲的診断モダリティにより PCI を 回避した心肺停止蘇生例	白戸 弘志
2 平成 26 年 9 月 27 日 ～ 9 月 28 日	第 25 回東北作業療法学 会	脳卒中患者の麻痺側の違いが抑う つ状態の発生要因に与える影響	長内 愛莉
3 平成 26 年 11 月 29 日 ～ 11 月 30 日	第 32 回東北理学療法学 術大会	理学療法士が行う目測による関節 可動域測定の精度～経験年数に よる違い～	原子 由
4 平成 26 年 11 月 29 日 ～ 11 月 30 日	第 32 回東北理学療法学 術大会	脳卒中患者の 10m 歩行速度に影 響を及ぼす歩容の観察項目	奈川 英美
5 平成 26 年 12 月 6 日	第 159 回日本循環器学会 東北地方会	心外膜側起源の心室頻拍が疑わ れたが、心内膜側からの焼灼が有 効であった心サルコイドーシスの一 例	妹尾 麻衣子
6 平成 26 年 12 月 6 日	第 159 回日本循環器学会 東北地方会	AMPLATZER Duct Occluder (ADO) による Patent Ductus Arteriosus (PDA) 治療を行った 2 症 例	妹尾 麻衣子
7 平成 27 年 1 月 17 日	第 37 回日本心血管インタ ーベンション治療学会東 北地方会学術集会	心腔内エコーガイド下での経皮的 心房中隔欠損閉鎖術	妹尾 麻衣子

学術報告－県学会

年月日	学会・研究会名	発表演題	主演者名
1 平成 26 年 5 月 17 日 ～ 5 月 18 日	第 27 回青森県作業療法 学会	杖なし歩行を望む脳卒中片麻痺患 者に対する転倒防止策としての体 の重心移動能力について	増田 大起

学術報告－依頼講演

	年 月 日	学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 26 年 4 月 9 日	臨床歯科研究会(弘前市)	脳卒中の治療と予防	萩井 譲士
2	平成 26 年 4 月 15 日	臨床講座(日本ベーリンガーインゲルハイム)(弘前市)	抗凝固療法の展望	萩井 譲士
3	平成 26 年 5 月 9 日	第 26 回弘前脳疾患臨床セミナー(第一三共)(弘前市)	抗凝固薬の現状と NOAC への期待-脳出血からみた抗血栓薬-	萩井 譲士
4	平成 26 年 5 月 16 日	イグザレルト錠発売 2 周年記念講演会(バイエル薬品)(弘前市)	当院におけるリバーロキサバンの使用経験	萩井 譲士
5	平成 26 年 5 月 17 日	エリキュース発売 1 周年記念講演会(ブリストル・マイヤーズ)(札幌市)	臨床データに基づく新規抗凝固薬の使い方	目時 典文
6	平成 26 年 5 月 20 日	脳卒中地域連携セミナーIN 埼玉県央地区(バイエル薬品)(上尾市)	脳梗塞の病態とケアについて-それぞれの立場でできること-	目時 典文
7	平成 26 年 5 月 30 日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター学術講演会(弘前市)	脳卒中初期症状と搬送のポイント	目時 典文
8	平成 26 年 5 月 30 日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター学術講演会(弘前市)	当院における救急受入れの現状	工藤 くみ
9	平成 26 年 6 月 10 日	鱒ヶ沢心原性脳塞栓症予防フォーラム(ブリストル・マイヤーズ)(鱒ヶ沢町)	心原性脳塞栓症の実際	目時 典文
10	平成 26 年 6 月 14 日	平成 26 年度第 1 回青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、青森圏域地域リハビリテーション広域支援センター合同研修会(青森市)	摂食・嚥下障害を理解するために	松本 茂男
11	平成 26 年 6 月 14 日	平成 26 年度第 1 回青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、青森圏域地域リハビリテーション広域支援センター合同研修会(青森市)	嚥下障害と食物の調整	三浦 順子
12	平成 26 年 6 月 17 日	持田製薬株式会社社員教育(持田製薬)(弘前市)	急性期における脳卒中治療	目時 典文

13	平成 26 年 6 月 19 日	新庄・最上地区イグザレト錠発売 2 周年記念講演会 (新庄最上医師会、バイエル薬品) (新庄市)	抗凝固薬の現状と NOAC への期待～脳出血からみた抗血栓薬～	萩井 譲士
14	平成 26 年 6 月 21 日	座談会(バイエル薬品) (東京都中央区)	第 Xa 因子阻害剤イグザレトの実臨床における臨床的位置づけ	齋藤 新
15	平成 26 年 6 月 21 日	ストップ! NO 卒中プロジェクト第 7 回エリアエキスパート会議～”質”を求める脳卒中マネジメントの実践～(ファイザー) (大阪市)	・実例紹介－地域連携構築プラン ・パネルディスカッション －各地域での取り組みからの学びと展開に向けて－	目時 典文
16	平成 26 年 6 月 27 日	むつ下北医師会学術講演会(ファイザー) (むつ市)	弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける NOAC の使用状況:年齢と腎機能を配慮した薬剤選択	萩井 譲士
17	平成 26 年 7 月 12 日	宮城 Diabetes Leader's Seminar2014(MSD) (仙台市)	弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける脳卒中診療の現況	保嶋 実
18	平成 26 年 7 月 31 日	平成 26 年度第 1 回むつ保健所難病患者等医療相談 (むつ市)	「嚥下障害と食事の調整、嚥下体操について～飲み込みづらい、むせる症状のある方へ～」	三浦 順子
19	平成 26 年 8 月 5 日	平成 26 年度地域・家族介護講座(青森市)	食事介助と誤嚥防止	松山 哲子
20	平成 26 年 8 月 21 日	大塚製薬株式会社社内勉強会(弘前市)	有効で安全な抗けいれん薬とは～弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける抗てんかん注射薬の使用状況からの考察～	鳥谷部 翔
21	平成 26 年 8 月 24 日	平成 26 年度第 2 回青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、上十三圏域地域リハビリテーション広域支援センター合同研修会(十和田市)	摂食・嚥下障害を理解するために	松本 茂男
22	平成 26 年 8 月 24 日	平成 26 年度第 2 回青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、上十三圏域地域リハビリテーション広域支援センター合同研修会(十和田市)	嚥下障害と食物の調整	三浦 順子

23	平成 26 年 9 月 5 日	東部地区学術講演会(バイエル薬品)(仙台市)	抗凝固薬の現状と NOAC への期待～脳出血からみた抗血栓薬～	萩井 護士
24	平成 26 年 9 月 11 日	平成 26 年度目からウロコ！ 知って得する介護講座 (青森県社会福祉協議会) (青森市)	飲み込みの仕組みと食事介助のコツ	松山 哲子
25	平成 26 年 9 月 17 日	MR 研修会(エーザイ) (弘前市)	抗凝固薬の位置づけについて	目時 典文
26	平成 26 年 9 月 20 日	第 18 回輸液・栄養セミナー (青森市)	簡易懸濁法インストラクター制度と新規抗凝固薬粉砕調剤により脳梗塞再発が疑われた 1 例	鳥谷部 翔
27	平成 26 年 9 月 25 日	旭川脳卒中治療連携カンファレンス(バイエル薬品) (旭川市)	循環器系内科医の視点による脳卒中診療	目時 典文
28	平成 26 年 9 月 26 日	CAS Technical Education Visit(日本メドトロニック) (札幌市)	安全な CAS～様々な選択肢を考えて	齋藤 新
29	平成 26 年 10 月 9 日	南黒医師会学術講演会(南黒医師会、 Bristol・マイヤーズ、ファイザー)(黒石市)	弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける NOAC の使用状況：年齢と腎機能を配慮した薬剤の選択	萩井 護士
30	平成 26 年 10 月 18 日	十和田市民公開講座 脳卒中予防フォーラム( Bristol・マイヤーズ)(十和田市)	脳卒中にならないために・・・～脳卒中は予防できる病気です～	齋藤 新
31	平成 26 年 10 月 21 日	Hirosaki Network Meeting2014「Brain Protection Seminar」(日本ベーリンガーインゲルハイム)(弘前市)	パネルディスカッション ーNOAC の上手な使い方についてー	目時 典文
32	平成 26 年 10 月 22 日	心原性脳塞栓症予防学術講演会(バイエル薬品) (八戸市)	抗凝固薬の現状と NOAC への期待～脳出血からみた抗血栓薬～	萩井 護士
33	平成 26 年 10 月 25 日	健康づくり提唱の集い(青森県栄養士会)(青森市)	高血圧と減塩	保嶋 実
34	平成 26 年 10 月 25 日	第 52 回青森臨床循環器研究会教育講演(青森市)	脳卒中診療医から見た心原性脳塞栓症の抗凝固療法	萩井 護士

35	平成 26 年 10 月 25 日	平成 26 年度第 3 回青森県 高齢者等地域リハビリテー ション支援センター、西北五 圏地域リハビリテーション 広域支援センター合同研修 会(五所川原市)	摂食・嚥下障害を理解するために	松本 茂男
36	平成 26 年 10 月 25 日	平成 26 年度第 3 回青森県 高齢者等地域リハビリテー ション支援センター、西北五 圏地域リハビリテーション 広域支援センター合同研修 会(五所川原市)	嚥下障害と食物の調整	三浦 順子
37	平成 26 年 10 月 27 日	第 1 回地域医療連携セミナ ー(群馬県医師会、ブリス トル・マイヤーズ、ファイザ ー)(前橋市)	まずは脳卒中医療の流れを知ろ う！～救急から回復期、予防まで ～	目時 典文
38	平成 26 年 10 月 29 日	Hirosaki Diabetes Night Seminar 2014(MSD) (弘前市)	脳卒中診療の現状と基礎疾患管 理	目時 典文
39	平成 26 年 10 月 30 日	会津医学会学術講演会 「Aizu Network Meeting」(日 本ベーリンガーインゲルハイ ム)(会津若松市)	抗凝固薬の現状と NOAC への期 待～脳出血からみた抗凝固薬～	萩井 護士
40	平成 26 年 11 月 1 日	北海道文教大学人間科学 部作業療法学科 平成 26 年度学術研修会(恵庭市)	症例報告～評価から治療介入の 流れ～	宮古 郷平
41	平成 26 年 11 月 11 日	ストップ！NO 卒中プロジェ クト in 弘前(社団法人日本 脳卒中協会、ファイザー) (弘前市)	脳卒中の早期発見、早期受診と予 防について～脈もふれてみよう～	目時 典文
42	平成 26 年 11 月 13 日	大崎地区学術講演会第 4 回県北抗血栓療法連携カン ファランス(大崎市医師会、 バイエル薬品)(大崎市)	心原性脳塞栓症の救急治療と予 防の重要性	目時 典文
43	平成 26 年 11 月 13 日	大崎地区学術講演会第 4 回県北抗血栓療法連携カン ファランス(大崎市医師会、 バイエル薬品)(大崎市)	パネルディスカッション ①臨床経験から学ぶ、従来療法か ら NOAC へ切替を勧められる症例 ②いつまで抗凝固療法を続けるべ きか	目時 典文

44	平成 26 年 11 月 15 日	平成 26 年度回復期セラピストマネジャーコース第 4 期 (東京都港区)	セラピストマネジャー体験発表	算用子 暁美
45	平成 26 年 11 月 21 日	第 4 回黎明郷リハビリテーションケア勉強会(弘前脳卒中・リハビリテーションセンター院内教育研修委員会) (弘前市)	「脳卒中の病態と予防」～そもそもなぜ脳卒中になるのか～	目時 典文
46	平成 26 年 11 月 22 日	第 71 回日本循環器心身医学会総会コーヒープレイクセミナー2(バイエル薬品) (札幌市)	脳梗塞急性期治療と発症予防そして精神サポートまで	目時 典文
47	平成 27 年 1 月 20 日	白石市医師会学術講演会(白石市医師会、バイエル薬品)(白石市)	心原性脳塞栓症の救急治療と予防の重要性	目時 典文
48	平成 27 年 2 月 7 日	第 8 回心房細動トータルマネジメントフォーラム(エーザイ)(東京都千代田区)	心原性脳塞栓症の重症度と予防の重要性	目時 典文
49	平成 27 年 2 月 19 日	STOP HYPERTENSION Forum in 青森(大日本住友製薬)(青森市)	脳卒中患者の血圧管理	萩井 譲士
50	平成 27 年 2 月 24 日	Embolism Conference In SAITAMA(バイエル薬品)(さいたま市)	心原性脳塞栓症の実際と予防の重要性	目時 典文
51	平成 27 年 3 月 3 日	イグザレト秋田エリア学術講演会(バイエル薬品)(秋田市)	脳卒中診療医から見た心原性脳塞栓症の抗凝固療法	萩井 譲士
52	平成 27 年 3 月 14 日	平成 26 年度第 4 回青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、津軽圏域地域リハビリテーション広域支援センター合同研修会(弘前市)	摂食・嚥下障害を理解するために	松本 茂男
53	平成 27 年 3 月 14 日	平成 26 年度第 4 回青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、津軽圏域地域リハビリテーション広域支援センター合同研修会(弘前市)	口腔内のトラブルと口腔ケア	小堀 文美子

54	平成 27 年 3 月 18 日	地域リハビリテーション津軽 圏域広域支援センター研修 会(大鰐町)	摂食困難者に対するアプローチの ヒント	松山 哲子
----	------------------	---	------------------------	-------

学術報告－論文

年 月 日		雑誌名	論文題目	著者名 (共著含む)
1	平成 26 年 6 月	Journal of Stroke Cerebrovascular Diseases 2014 Vol.23 No.6(P.1747-1749)	Reduced smoke-like echo and resolved thrombus in the left atrium with rivaroxaban therapy in an acute cardioembolic stroke patient	齋藤 新
2	平成 26 年 6 月 15 日	臨床検査学雑誌メディカ ル・テクノロジー2014 Vol.42 No.6(P.604-608)	MT Seminar 心原性脳塞栓症における BNP 測定の意 義	目時 典文
3	平成 26 年 7 月 1 日	内科系総合雑誌モダン フィジシャン Vol.34 No. 7 (P.778-781)	脳卒中患者の肩関節痛の治療と管理 急性期から回復期における肩手症候群を 含む肩関節痛の治療と管理について	岩田 学
4	平成 26 年 9 月	Stroke 2014 Vol.45 No.9 (P.2805-2807)	Characteristics of intracerebral hemorrhage during rivaroxaban treatment comparison with those during warfarin	萩井 護士
5	平成 26 年 11 月 7 日	Japanese Journal of Co mprehensive Rehabilitati on Science 2014 Vol.5 (P.125-130)	Relationship between sleep disorder and subjective feelings of recovery in convalescent stroke patients	佐藤 ちひろ
6	平成 26 年 12 月 1 日	日本脳卒中協会会報「J SA News」2014 No.40 (P.14)	支部だより 青森県支部	奥村 謙 (文責 目時 典文)
7	平成 27 年 3 月 29 日	青森県作業療法研究 2014 Vol.23 No.1 (P.33-37)	特集 生活行為向上マネジメント事例 1 通勤に際してバスを利用できることを目標 にした訪問作業療法	金谷 圭子
8	平成 27 年 3 月 29 日	青森県作業療法研究 2014 Vol.23 No.1 (P.39-43)	特集 生活行為向上マネジメント 事例 2 妻の介護のために基本動作能力を再獲 得することを目標にした訪問作業療法	金谷 圭子
9	平成 27 年 3 月 29 日	青森県作業療法研究 2014 Vol.23 No.1 (P.45-49)	特集 生活行為向上マネジメント 事例 3 生活行為向上マネジメントを用いて排泄 動作の問題を明確化したことにより自宅退 院に至った症例	今井 寛人
10	平成 27 年 3 月 29 日	青森県作業療法研究 2014 Vol.23 No.1 (P.51-55)	特集 生活行為向上マネジメント 事例 4 生活行為向上マネジメントを用いて退院 後のイメージを具体化させた症例に対す る関わり	今井 寛人

11	平成 27 年 3 月 29 日	青森県作業療法研究 2014 Vol.23 No.1 (P.97-99)	症例報告 促通反復療法で効果のあった一症例	椎名 滝太
12	平成 27 年 3 月 29 日	青森県作業療法研究 2014 Vol.23 No.1 (P.101-106)	実践報告 失調症状を呈しながらも既存のナースコ ール子機を使用するための位置設定の方 法	金谷 圭子

# 委員会報告

## 医療安全管理委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療安全管理体制を確立し、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を実践し、患者様へ安全な医療を提供することを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	保嶋 実	院長
副委員長	三國谷 恵美子	看護部長
	藤田 尚子※	医薬品情報室副室長
メンバー	鎌田 孝篤※	副院長（医療安全推進室室長）
	岩田 学	副院長
	齋藤 新	内科副部長
	中田 智子	看護師長
	山田 まり子	看護師長
	小笠原 美幸	看護師長
	成田 京子	看護師長
	工藤 留美子	看護師長
	小田桐 千代	看護師長
	須藤 真史	理学療法室長
	算用子 暁美	作業療法室長
	松山 哲子	言語聴覚室長
	三浦 順子	リハビリテーション部技師長
	鳥谷部 翔	薬剤室副室長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	阿保 文子	臨床検査技師長
	土岐 敏子	医療相談室長
	鳴海 悦子	管理栄養士長
	小林 正志	事務部長
	奈良 富士子	庶務課長
	工藤 雅令	事務部次長
	蒔苗 寿治	医事課長
	工藤 博人	企画運営課長
	横山 純子※	医療安全推進室副室長（専従医療安全管理者）
	福井 楽※	庶務課主任

※医療安全推進室（兼務）

### 3. 委員会等開催記録

#### ・【医療安全推進室】

毎週金曜日 定例会 (LV 判定他) 14:30~15:00

毎月第3木曜日 院内巡視 16:00~16:30

推進室メンバー 8名 平成26年11月27日:専従医療安全管理者変更

#### ・【医療安全管理委員会】

毎月第2水曜日 事例報告・検討 15:30~16:00

各部署リスクマネージャー 他 24名

#### ・【転倒・転落ワーキング】

毎月第1火曜日 16:00~16:30

各部署選出のメンバー 19名

分析G、マニュアルG、環境整備G、情報提供G

#### 院内巡視

開催日	場所	内容
平成26年4月24日	外来	診療室内環境
平成26年5月15日	1病棟	機器管理 5S励行
平成26年6月19日	2病棟	病棟内環境整備
平成26年7月24日	3病棟	薬剤取扱い環境整備
平成26年8月28日	4病棟	救急カート、薬剤管理
平成26年10月23日	5病棟	配薬業務周囲環境整備
平成26年11月20日	外来	救急カート内薬品管理
平成26年12月25日	薬剤室	コミュニケーションエラー対策・室内環境整備
平成27年1月23日	臨床検査室	整理整頓
平成27年2月20日	1階リハ室	リハビリ機器管理、患者管理
平成27年3月20日	放射線室	職員の健康管理 危機管理

#### 主な研修会

開催日	内容
平成26年4月2日	2014年度新入職員教育研修「リスクマネジメント」
平成26年4月10日	看護部新人教育「針刺し事故・点滴開通ミスなど」
平成26年5月29日 ~6月2,3,4,5日	第1回医療安全研修会 「法的立場から見たカルテ記載上の留意点」
平成26年8月27日	ME機器勉強会
平成26年9月10日	安全管理講習会 モニタアラームと安全管理
平成26年10月22日	看護記録研修「患者が見える記録」
平成26年12月1~5日	第2回医療安全研修会「KYT研修」
平成27年2月17日	医療機器安全管理研修:MRIについて

#### 4. 活動要約

- ・転倒・転落

院内での報告状況結果では高いが、全国の発生状況と比較すると中央値より低く、リスクに対する意識が高く、対策、管理体制が整備されてきている。

- ・チューブ類の管理

胃瘻造設を当院で実施しないことから経鼻胃管での経腸栄養投与している患者が必然的に多い。インシデントカテゴリーではチューブ管理（経鼻胃管自己抜去）が増えている。チューブ管理を含め行動制限に関わる事項についてマニュアルの整備をしていく。

- ・薬剤関連

職員が直接関わる事項でアクシデントにも繋がる。

発生原因として、確認を怠る、知識不足、ルール・マニュアルの逸脱などが挙げられる。

「スタッフの気づきを育てる体制」の視点が重要。実践の中で常に関心を持ち、人・物事を捉える習慣をつけ、薬剤安全対策に繋げることを目的とし、ワーキングチームで安全対策していく。

#### 構成員の変更

- ・平成 26 年 11 月 27 日付

専従医療安全管理者：中田 智子へ変更

1 病棟看護師長代行：成田 幸英へ変更

- ・平成 27 年 3 月 1 日付

1 病棟看護師長 : 成田 京子へ変更

外来看護師長 : 小田桐千代へ変更

## 院内感染防止対策委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療関連感染防止のために、耐性菌検出状況・抗菌薬の使用状況を把握し院内感染対策の業務が適正に遂行されているかを審議することを目的とする。

### 2. 構成

委員長	保嶋 実 (院長)	
メンバー	清野 聡 (医局長)	萩井 譲士 (内科副部長)
	三國谷恵美子 (看護部長)	中田 智子 (看護師長)
	山田 まり子 (看護師長)	金崎 真紀子 (看護師長)
	小笠原 美幸 (看護師長)	工藤 留美子 (看護師長)
	成田 京子 (看護師長)	横山 純子 (看護師長)
	赤石 富士子 (看護師) ※	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	三浦 順子 (リハビリテーション部技師長)	吉澤 佳子 (管理栄養士)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)	小林 正志 (事務部長)
	蒔苗 寿治 (医事課長)	鳥谷部 翔 (薬剤室副室長)
	倉内 寿孝 (薬剤師)	久米田 一喜 (薬剤師)

※感染管理者

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 16 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 消毒薬使用状況の検討・報告 I C Tよりラウンド状況など報告
2	平成 26 年 5 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 消毒薬使用状況の報告 MDRP院内アウトブレイクについて報告 I C Tよりラウンド状況など報告
3	平成 26 年 6 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 海外における薬剤死亡例に関する出荷停止などについて I C T委員よりラウンド状況・感染発生状況など報告
4	平成 26 年 7 月 16 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 全抗菌薬AUD報告開始 I C T委員よりラウンド状況など報告

5	平成 26 年 8 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告
6	平成 26 年 9 月 17 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 I C T 委員よりラウンド状況・針刺し事故報告 インフルエンザワクチン接種準備開始 感染初療室の設置準備状況について
7	平成 26 年 10 月 15 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 インフルエンザ接種状況報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告
8	平成 26 年 11 月 19 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告 第 2 回院内感染研修会の内容検討 外部委託業者のインフルエンザワクチン接種について検討
9	平成 26 年 12 月 17 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告 院内感染者発生状況報告
10	平成 27 年 1 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告 院内感染者発生状況報告 インフルエンザ発生によりリハビリテーション制限や面会制限
11	平成 27 年 2 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告 ノロウイルス検出キット保存状態の確認
12	平成 27 年 3 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告 I C T 委員よりラウンド状況（年間）など報告 インフルエンザへの病院対応について

#### 4. 活動要約

- ・ 感染情報レポートを評価し、患者状況・治療状況を把握
- ・ 検査室より血液培養結果、耐性菌検出状況報告
- ・ 薬局より、抗菌薬・消毒剤使用状況報告
- ・ I C T よりラウンド状況報告
- ・ 年 2 回開催の勉強会内容を検討

## 栄養管理委員会

### 1. 活動目的

病院給食が合理的に運営されるために栄養管理委員会を開催し、患者の適正な栄養管理を行い、医療の質の向上を計ることを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	佐々木 都子（内科副部長）	
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤室師長）	阿部 早苗（薬剤師）
	乗上 綾子（臨床検査技師）	三國谷 恵美子（看護部長）
	今井 真子（看護師）	佐藤 志乃（看護主任）
	木村 美和（看護師）	横濱 岳（看護師）
	高阪 理恵（看護師）	伊藤 美沙（看護師）
	齋藤 恵（看護師）	原子 美喜子（看護師）
	加藤 早苗（看護師）	三上 順子（看護師）
	山形 由紀子（看護師）	石黒 智子（准看護師）
	村上 直美（看護師）	千葉 順子（看護師）
	池上 友紀子（言語聴覚士）	蒔苗 寿治（医事課長）
	須藤 貴子（栄養士・日清医療食品）	
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	藤田 佳子（管理栄養士）

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成 26 年 4 月 2 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、禁止食品の対応について、嚥下調整食説明会
2	平成 26 年 5 月 7 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、春の食事会、移行菜開始、早配膳の確認、お茶ポットの取り扱いについて
3	平成 26 年 6 月 4 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、春の食事会反省、NST 勉強会、メディカルスタッフ勉強会
4	平成 26 年 7 月 2 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、栄養指導加算、昼食保管について
5	平成 26 年 8 月 6 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、実習生予定、お茶ポットの取り扱いについて
6	平成 26 年 9 月 3 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、秋の食事会、移動給食入力について
7	平成 26 年 10 月 1 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、秋の食事会反省、備蓄粥の提供、栄養管理システムの入替え
8	平成 26 年 11 月 5 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、クリスマス食事会、入浴日の水分補給について、ノロウイルスマニュアル確認

9	平成 26 年 12 月 3 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、クリスマス食事会の反省、入浴日の水分補給について
10	平成 27 年 1 月 7 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、クリスマス食事会反省、節分の早配膳について、院内勉強会、感染症の対応
11	平成 27 年 2 月 4 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、移動給食の入力について、感染症の対応
12	平成 27 年 3 月 4 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、次年度の栄養管理委員会・NST メンバー、入浴日の水分補給状況、経腸栄養剤の栄養組成表改訂、管理栄養士新採用について

#### 4. 活動要約

- ・ 5 月から新しく嚥下調整食（移行菜）が開始となった。
- ・ 食事会や行事食は例年通り実施。食事会に於いては、事前の連絡調整を円滑に行えるようにし、当日のみ形態変更（移行菜から常菜へ）可能な方に常菜を提供する事が出来た。
- ・ 栄養管理システムの入替えにより、移動給食のコメント項目が増え入力しやすくなった。
- ・ 入浴日の水分補給にイオン飲料を取り入れる事で、楽しみとして、また水分摂取の少ない患者様の水分量の増加に繋がった。
- ・ 院内勉強会は年 3 回実施。次年度も継続し行っていきたい。

## 褥瘡対策委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	岩田 学	(副院長)		
副委員長	栗嶋 昭子	(看護師)		
メンバー	三國谷恵美子	(看護部長)	工藤 妥恵	(看護師)
	船水 梨沙	(薬剤師)	白川 笑美子	(看護師)
	藤田 佳子	(管理栄養士)	橋本 祐樹	(看護師)
	伊藤 純子	(看護師)	宮野 麻莉	(看護師)
	小野 るり子	(看護師)	浅利 尚美	(リハ主任)
	三上 知彦	(看護師)	小野 公久	(リハ主任)
	山田 可奈子	(看護師)	北川 絵	(医事課)
	宇野 喜美子	(准看護師)	菊池 真	(会計課)

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 23 日	資料をもとに購入する体位交換枕を検討していくことを報告した。
2	平成 26 年 5 月 28 日	褥瘡の DESIGN・治癒経過評価表の評価の点数部分に変更になり、担当者より説明を行った。
3	平成 26 年 6 月 18 日	6 月 16 日に体位交換枕 (5 種類) のサンプルを準備した。※6/30 返却。
4	平成 26 年 7 月 23 日	体位交換枕について、リースか購入するか検討した。
5	平成 26 年 8 月 27 日	体位交換枕はリースの方向で検討中。
6	平成 26 年 9 月 24 日	栄養室より、味の素 (シスチンテアニン) があり、褥瘡のある患者様に 1 日 1 回褥瘡が治癒するまで投与すればいいとのこと。
7	平成 26 年 10 月 22 日	バイアテンへ変更することになった。
8	平成 26 年 11 月 26 日	12 月 1 日より体位交換枕のリーススタート予定となったことを報告した。
9	平成 26 年 12 月 24 日	体位交換枕のリース分は 130 個となったことを報告した。
10	平成 27 年 1 月 28 日	現在使用中のエアマットがいつまで使用できるかを検討する。
11	平成 27 年 2 月 25 日	来月は年度末のため当院の体位交換枕の在庫数の状況確認をする。
12	平成 27 年 3 月 25 日	エアマットのウェービングスターを介護老人保健施設つがるへ貸出した。

#### 4. 活動要約

- ・ 定例委員会において、各病棟での褥瘡発生状況と治療経過について確認検討した。
  - ・ 定例委員会において、体位交換枕等の使用状況について確認した。
  - ・ より活発な委員会を目指し、次年度の取り組み課題を検討した。
  - ・ 体位交換枕のリース開始となった。
  - ・ 定例委員会後に5分程の勉強会を開催した。
- 1) リハスタッフ、栄養士、薬剤師がその専門性を生かし、予防や栄養補助食品、薬剤に関する情報を積極的に提供していく。
  - 2) 褥瘡に関する研修会への参加を促進する。
  - 3) 定例委員会で勉強会を開催する。
  - 4) 褥瘡に関する病棟スタッフ間での質問や話し合いが活発になるように、褥瘡対策委員が積極的に啓蒙活動を行う。

# 臨床検査適正化検討委員会

## 1. 活動目的

本委員会は、当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

## 2. 構成員

委員長	萩井 譲士 (内科副部長)	
メンバー	保嶋 実 (院長)	清野 聡 (医局長)
	山田 まり子 (看護師長)	三國谷恵美子 (看護部長)
	横山 純子 (看護師長)	倉内 寿孝 (薬剤師)
	小笠原 美幸 (看護師長)	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	成田 京子 (看護師長)	今 基 (医事課)
	工藤 留美子 (看護師長)	小田桐 千代 (看護師長)
	金崎 真紀子 (看護師長)	中田 智子 (看護師長)

## 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 16 日	精度管理実施結果、医師からの血液ガス分析結果問合せ、新検査項目の追加等の報告 青森県感染対策協議会・細菌検査情報共有システム参加報告
2	平成 26 年 5 月 15 日	多項目自動血球分析装置不具合と対処報告
3	平成 26 年 6 月 18 日	精度管理結果報告(2 調査)、血液ガス分析装置ソフトウェア更新報告 多項目自動血球分析装置不具合と対処報告
4	平成 26 年 7 月 16 日	精度管理参加報告、医師研究検査の検討、 多項目自動血球分析装置・血液型判定装置導入検討 自動生化学分析装置定期点検報告
5	平成 26 年 8 月 20 日	精度管理参加報告
6	平成 26 年 9 月 17 日	精度管理実施報告 血液ガス分析装置定期点検報告
7	平成 26 年 10 月 15 日	精度管理参加結果報告 免疫装置精度管理用・リモート等の NET 通信開始報告 多項目自動血球分析装置・血液型判定装置導入・検査開始報告 血液凝固検査装置 1 年点検、生化学自動分析装置不具合と対処報告
8	平成 26 年 11 月 19 日	精度管理参加申込、実施、結果報告
9	平成 26 年 12 月 17 日	血液ガス分析装置定期点検報告、 精度管理参加申込、実施、結果報告 血小板凝集能検査装置不具合と対処報告 多項目自動血球分析装置精度管理・リモート等の NET 通信開始報告
10	平成 27 年 1 月 21 日	精度管理参加実施報告 自動生化学分析装置定期点検実施報告

11	平成 27 年 2 月 18 日	血液ガス分析装置定期点検報告、 栄養室からの新規検査項目の追加依頼の検討
12	平成 27 年 3 月 18 日	精度管理実施報告 検査試薬の精度向上の為の検討結果報告 検査結果の不具合の問合せへの対応報告

#### 4. 活動要約

- ・ 検査データの精度の向上に努める
- ・ 最新の検査項目の提供
- ・ 検査機器の保守
- ・ 研究活動（抗凝固薬の検討他 2 事例）

## 薬事審議委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医薬品の採用及び削除に関して審議し、医薬品適正使用を目的に活動するものである。

### 2. 構成員

委員長	清野 聡 (医局長) 兼 薬剤室長、医薬品情報室長
委員	岩田 学 (副院長)
	内沢 隆充 (脳神経外科部長) 目時 典文 (内科副部長)
	小林 正志 (事務部長) 蒔苗 寿治 (医事課長)
委員長推薦	鳥谷部 翔 (薬剤室副室長) 【事務局】
	藤田 尚子 (医薬品情報室副室長) 工藤 博人 (企画運営課長)

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 14 日	平成 26 年度委員任命 トラムセット配合錠からトラマールカプセルへ変更の検討 グラン注のバイオ後発品の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
2	平成 26 年 5 月 12 日	リオレサール錠、パントシン散の本採用検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 平成 26 年度薬価改定率報告
3	平成 26 年 6 月 9 日	薬価改定に伴う後発品の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
4	平成 26 年 7 月 14 日	ボトックス注の本採用検討 モダシン注の流通問題に伴う後発品の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
5	平成 26 年 8 月 11 日	セイブル錠の本採用の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
6	平成 26 年 9 月 8 日	ドブトレックスキット点滴静注用の本採用検討 リスペリドン大洋製品の流通問題に伴う他社後発品の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告、医薬品・医薬部外品品質調査報告

7	平成 26 年 10 月 20 日	アミノバクト顆粒のチューブ閉塞に伴う先発品の検討 価格妥結率状況報告 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告、医薬品・医薬部外品品質調査報告
8	平成 26 年 11 月 10 日	フルメトロン点眼液の後発品検討 ヒルドイドクリームの後発品検討 ロセフィン注の配合変化の少ない後発品検討 ザクラス配合錠、クレナフィン外用液の本採用検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
9	平成 26 年 12 月 8 日	注射用水のルアーフィット製剤の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
10	平成 27 年 1 月 19 日	トラマルカプセル、OD錠へ剤型変更の検討 ジェイゾロフト錠、OD錠へ剤型変更の検討 リクシアナ錠 60m g の本採用検討 グリチロン配合錠の後発会社品検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 日経D I の 2014 年度後発品ランキング確認
11	平成 27 年 2 月 9 日	ハスレン軟膏販売中止に伴う先発品の検討 アンブロキシール錠 15 の採用規格とOD錠へ剤型変更の検討 レバミピド錠、他社後発品の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
12	平成 27 年 3 月 9 日	半夏厚朴湯の本採用検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告

#### 4. 活動要約

- ・ 事務局である薬剤室薬剤師が各製造販売会社ホームページ、MR訪問、添付文書やインタビューフォームなどから情報を入手、資料を作成し薬事審議委員会にて審議する。
- ・ 県内医療機関の採用状況及び流通を定期的に聴取し評価する。
- ・ 採用中の先発医薬品の中で①適応に違いがない、②形状や大きさが先発と似ている、③後発医薬品のみの特徴がある、など変更可能と考えられる医薬品を積極的に後発品に切り替える。新規採用の場合でも可能であれば後発医薬品とする。
- ・ 新規採用薬、採用変更及び中止薬を院内に回覧し周知する。
- ・ デッドストック情報を毎月共有し不良在庫にならないようにする。
- ・ 後発医薬品採用割合を、毎月チェックする。
- ・ 問題発生があれば速やかに薬事審議委員会に報告し採用継続の適否を検討する。

## 電子保存システム管理委員会

### 1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターに電子保存システム管理委員会を設け、診療録および電子保存システムの適正な管理、運用を行うことを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	保嶋 実	院長
メンバー	鎌田 孝篤	副院長
	岩田 学	副院長
	齋藤 新	内科副部長
	三國谷 恵美子	看護部長
	横山 純子	看護師長（感染対策室副室長）
	中田 智子	看護師長（医療安全推進室副室長）
	成田 京子	看護師長
	山田 まり子	看護師長
	金崎 真紀子	看護師長
	小笠原 美幸	看護師長
	工藤 留美子	看護師長
	小田桐 千代	看護師長
	三浦 順子	リハビリテーション部技師長
	須藤 真史	理学療法室長
	算用子 暁美	作業療法室長
	松山 哲子	言語聴覚室長
	土岐 敏子	医療相談室長
	藤田 尚子	医薬品情報室副室長
	鳥谷部 翔	薬剤室副室長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	阿保 文子	臨床検査技師長
	鳴海 悦子	管理栄養士長
	小林 正志	事務部長
	工藤 雅令	事務部次長
	奈良 富士子	庶務課長
	蒔苗 寿治	医事課長
	工藤 博人	企画運営課長
	佐々木 哲裕	医事係（診療録管理者）
	立林 修	医事係長（運用責任者）
	盛 啓介	医事課主任（システム管理者）

### 3. 委員会開催記録

・電子保存システム管理委員会

毎月第2水曜日 16:00～（医療安全管理委員会終了後）

診療録・電子カルテシステム等の管理、運用等に関する事項の検討

各部署委員 32名

#### 主な活動内容

回	日付	内容
1	平成26年4月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北厚生局適時調査を受けてテンプレート「リハ総合実施計画書」の項目変更</li> <li>・平成26年度診療報酬改定に伴う、電子カルテの看護必要度評価ツールの項目変更</li> </ul>
2	平成26年5月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療計画（パス）オーダーツール「頸動脈ステント留置術」の新規運用作成</li> <li>・マイクロソフト社インターネットエクスプローラー脆弱性問題で、修正プログラムを院内端末へ適用安全性確認</li> </ul>
3	平成26年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡テンプレート入力フォームの評価票、「DESIGN-R」を適用</li> <li>・超音波検査の予約枠を変更</li> </ul>
4	平成26年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テンプレート入力フォーム新規追加（MRSA報告書、患者相談支援レポート、胃瘻交換患者様連絡票）</li> <li>・放射線システム端末、画像参照端末（一部）の入替え</li> </ul>
5	平成26年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検体検査セット「針刺し汚染事故採血」を作成</li> <li>・テンプレート入力フォーム新規追加（頸動脈ステント留置術記録、廃用症候群に係る評価表、標準高次視知覚検査）</li> </ul>
6	平成26年9月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経精神科の入院患者受診予定管理を運用変更</li> <li>・インターネット接続回線をアナログ回線（ADSL）からデジタル回線（光）に変更</li> </ul>
7	平成26年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養部門システムの入替え、本稼働</li> </ul>
8	平成26年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク障害に伴う、障害時対応マニュアル等の見直し及び作成の開始</li> </ul>
9	平成26年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク障害発生源の機器交換</li> <li>・3、4病棟の病床変更に伴う病棟、病室マスタの修正</li> <li>・弘大脳外非常勤医師の外来予約枠を追加</li> </ul>
10	平成27年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テンプレート入力フォーム新規追加（救急搬送時 傷病者情報提供用紙、転倒転落防止対策計画書、転倒転落シミュレーション）</li> </ul>
11	平成27年2月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テンプレート入力フォーム新規追加（転倒・転落対策計画書）</li> <li>・画像サーバーおよびビューア（参照用ソフト）のバージョンアップ</li> </ul>
12	平成27年3月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテシステム更新について検討開始</li> <li>・システム障害時対応マニュアルの完成</li> </ul>

## DPCコーディング委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保することを目的とする。

### 2. 構成

委員長	医療部	鎌田 孝篤（副病院長）
メンバー	医療部	清野 聡（医局長）
		萩井 譲士（内科副部長）
		鳥谷部 翔（薬剤室副室長）
		三國谷 恵美子（看護部長）
看護部		中田 智子（看護師長）
		金崎 真紀子（看護師長）
		事務部
事務部		立林 修（医事係長）
		佐々木 哲裕（医事係／診療記録管理者）

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成 26 年 10 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"><li>委員会規程について</li><li>データ提出加算及び作成様式の概要について</li><li>適切なコーディングのための方策について</li></ul>

### 4. 活動要約

- サマリをはじめとした診療記録及びデータ提出における入力内容の確認。

## 倫理委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医学・医療の倫理的問題について協議するとともに、病院長又は医療部長の諮問を受けて、当院に所属する者が当院において行う医療行為、医学研究及び教育等が医の倫理に関するヘルシンキ宣言等の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるか審査する。

### 2. 構成員

委員長 松本 茂男（副院長）  
 メンバー 鎌田 孝篤（副院長）  
 清野 聡（医局長）  
 三國谷 恵美子（看護部長）

#### 【病院外部の学識経験者】

弘前大学大学院医学科循環呼吸腎臓内科学講座

准教授 長内 智宏

青森県立保健大学健康科学部理学療法学科

准教授 勘林 秀行

東北メディカル学院

学術教育顧問 二唐 東朔

#### 【事務局】

奈良 富士子（庶務課長）

神野 一條（庶務課）

### 3. 活動記録

#### A 審議あり

受付日	研究名	申請者
平成 26 年 4 月 9 日	新規抗凝固薬(NOAC)服用下の脳梗塞、脳出血症例の臨床的特徴	内科副部長 萩井 譲士
平成 26 年 5 月 20 日	回復期リハ病棟における退院調整チェックリスト導入前後での看護師の意識変化について	4 病棟看護師 須藤 圭吾
平成 26 年 6 月 20 日	脳卒中後遺症をもつ慢性期患者に対する介入の実態について	弘前大学医学部保健学科 看護学専攻 工藤 せい子 4 年生 阿部 さお梨
平成 26 年 7 月 25 日	脳卒中発症時 ANP 値測定の心原性脳塞栓症および心房細動検出における診断価値の検討	内科副部長 目時 典文
平成 26 年 11 月 6 日	睡眠中発症及び発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静注血栓溶解療法の有効性と安全性に関する臨床試験 Thrombolysis for Acute Wake-up and unclear-onset Strokes with alteplase at 0.6mg/kg (THAWS) Trial	内科副部長 目時 典文

平成26年12月2日	ファブリー病診療における Lyso-Gb3 の有用性の検討	副院長 岩田 学 内科副部長 萩井 譲士
平成27年1月16日	脳卒中急性期および慢性期患者の病態解明に関する疫学研究	内科副部長 萩井 譲士

B 審議を必要としないもの（委員長決済）

平成26年12月3日	排泄自立へ向けてのフロー作成前後での自立期間の比較	5病棟看護師 戸堀 紗稀
平成27年1月26日	脳卒中患者の歩行自立度、ADL、転帰先に関する予後予測	理学療法士 奈川 英美

4. 活動要約

- ・ 審査は、紙上にて実施している。
- ・ 各委員が審査の上、必要において申請者へ質問をしている。また、不備な点については、修正、追加の上再申請をさせている。

## 衛生委員会

### 1. 活動目的

衛生委員会の構成、運営、調査審議事項などを定め、衛生管理活動の円滑な推進を図ることを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	保嶋 実	院長 (衛生管理者)
	人見 博康	内科部長 (産業医)
	清野 聡	医局長 (衛生管理者)
	松本 茂男	副院長
	小林 正志	事務部長
	三國谷 恵美子	看護部長
	横山 純子	看護師長
	小田桐 千代	看護師長
	三浦 順子	リハビリテーション部技師長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	算用子 暁美	作業療法室長
	齋藤 理恵	医事課主任
	奈良 富士子	庶務課長

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 30 日	感染罹患状況、春の健康診断、労災事故他について報告および検討をした。
2	平成 26 年 5 月 28 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討をした。メンタルヘルスケア研修会の内容について検討した。
3	平成 26 年 6 月 25 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討をした。メンタルヘルスケア研修会について：9 月 17 日、講師古郡則雄先生に決定した。
4	平成 26 年 7 月 30 日	感染罹患状況、秋の健康診断、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討した。春の健康診断結果の配布とフォローアップについて報告をした。
5	平成 26 年 8 月 27 日	感染罹患状況、労災事故他について報告および検討をした。被ばくの恐れのある看護師に対するポケット線量計準備完了を報告した。
6	平成 26 年 9 月 24 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討をした。
7	平成 26 年 10 月 29 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討をした。

8	平成 26 年 11 月 26 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討をした。秋の健康診断結果の配布とフォローアップについて報告をした。
9	平成 26 年 12 月 24 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討をした。
10	平成 27 年 1 月 28 日	感染罹患状況、労災事故他について報告および検討をした。労働安全衛生法の改正およびストレスチェック実施の義務化について報告をした。
11	平成 27 年 2 月 25 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回他について報告および検討をした。
12	平成 27 年 3 月 25 日	感染罹患状況、労災事故について報告および検討をした。

#### 4. 活動要約

- ・事業者側と雇用者側からの委員構成で職場環境の点検と対策について検討した。
- ・健康診断で所見のあった職員へのフォローアップをした。  
春の受診者数 171 人、指示人数 82 人 (45%)  
秋の受診者数 389 人、指示人数 100 人 (25%)
- ・前年度に路面凍結による転倒事故に対し、対策として職員通用口付近に融雪および電気マットを敷いた。結果、今年度は路面凍結による転倒事故の発生を防ぐことができた。  
労災事故件数 針刺し 4 件、捻挫等の怪我 4 件、ハチ刺され 2 件、かみつかれ 1 件
- ・メンタルヘルスケアについて年 1 回の研修会の実施  
講演：「コミュニケーション」について／開催：9 月 17 日、  
講師：弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 准教授 古郡規雄 先生、参加者 357 人
- ・感染罹患状況の把握と休養の指導をした。
- ・産業医の巡回による職場環境の点検および指摘事項の検討をした。

## 部署代表者委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、少しでも働きやすい環境となるよう、就業規則等の作成・変更にあたっての意見を職員から聴取・集約した上で、財団との交渉や、財団が必要とする意見交換に応じ、法令で定められた書面による財団との協定の締結・変更及び解約を行うことを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	診療部代表	川村 隆行（診療放射線技師長）
メンバー	医局代表	佐々木都子（内科副部長）
	看護部代表	佐藤 奈奈（看護主任）
	〃	大川 麻美（看護主任）
	リハビリテーション部代表	浅利 尚美（リハ主任）
	〃	佐藤 登康（作業療法士）
	事務部代表	盛 啓介（医療情報係長）

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 24 日	平成 26 年度の時間外労働及び休日労働に関する協定書を財団と締結した旨を示す書面の写しを各部署へ回覧した。
2	平成 26 年 4 月 24 日	平成 26 年度の定期昇給・賞与支給率についての協定書を財団と締結した旨を示す書面の写しを各部署へ回覧した。
3	平成 26 年 4 月 24 日	平成 26 年 3 月 11 日に財団へ提出した「就業規則、給与規程に関する職員からの意見・要望」に対する回答を書面にて頂き、その書面の写しを各部署へ回覧した。
4	平成 26 年 5 月 2 日	委員長が職員代表者として適任であるか、各部署に確認するための書面を回覧した。
5	平成 26 年 6 月 9 日	5 月 2 日付で回覧した書面を回収・確認した結果、過半数以上の職員から賛同を得られたことを、各部署へ文書にて報告した。
6	平成 26 年 9 月 18 日	就業規則等の一部改正について、意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒職員各位の意見を聴取し、とりまとめ、文書にて財団へ提出した。
7	平成 26 年 9 月 30 日	9 月 18 日付の就業規則の一部改正に関して、委員会から財団へ対して異議申し立てを行った結果、取り下げた改正案を除き、就業規則の一部改正を行った。
8	平成 26 年 10 月 9 日	9 月 30 日に行った就業規則の一部改正の変更を 10 月 8 日に弘前労働基準監督署に届出したことを財団より報告を受ける。
9	平成 27 年 1 月 16 日	財団より、特殊勤務手当（インセンティブ手当）の運用を平成 27 年 1 月から試行的に開始したと報告を受ける。
10	平成 27 年 3 月 26 日	平成 27 年度の時間外労働及び休日労働に関する協定書ならびに定期昇給・賞与支給率についての協定書を財団と締結した。

11	平成 27 年 3 月 31 日	3 月 26 日付で締結した協定書を弘前労働基準監督署に届出したことを財団より報告を受ける。
----	------------------	--

#### 4. 活動要約

職員の大半は、働く環境に何らかの不満を感じているはずなので、微力ながらも改善に向けて努力は続けているが、職員が納得する結果が得られていないため、26 年度に引き続き、27 年度も職員が気持ち良く業務に従事出来る体制を整えることを目標とする。

## 教育研修委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける職員の学習を奨励し、①職業人として自己を研鑽する姿勢を身につける、②医療人として患者のために奉仕する心を学ぶ、③プロフェッショナルとして個々の知識、スキルを高めるための支援、及び環境調整をするものである。

### 2. 構成員

委員長	岩田 学 (副院長)	
副委員長	人見 博康 (内科部長)	三浦 順子 (リハビリテーション部技師長)
メンバー	鳥谷部 翔 (薬剤室副室長)	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)	鳴海 悦子 (管理栄養士長)
	小田桐千代 (看護師長)	山田 まり子 (看護師長)
	中村 学人 (理学療法士)	増田 大起 (作業療法士)
	成田 笑美 (医療相談員)	立林 修 (医事係長)
	濱中 麻里 (医事課)	桑田 武人 (会計課主任)

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 25 日	出張旅費規程検討 学術奨励賞について報告 今年度施設間勉強会計画報告
2	平成 26 年 5 月 23 日	市民公開講座内容について報告 リハビリテーションケア勉強会の内容報告
3	平成 26 年 6 月 27 日	旅費規程を次年度から変更する旨報告 リハビリテーションケア勉強会計画報告
4	平成 26 年 7 月 25 日	リハビリテーションケア勉強会進捗状況報告 院外講習会予定報告
5	平成 26 年 8 月 22 日	リハビリテーションケア勉強会中止報告 高次脳機能障害講習会への職員参加について
6	平成 26 年 9 月 19 日	職員表彰について リハビリテーションケア勉強会の内容報告
7	平成 26 年 10 月 24 日	職員表彰について リハビリテーションケア勉強会について リハケア合同研究大会予演会の予定について
8	平成 26 年 11 月 26 日	職員表彰について リハビリテーションケア勉強会結果報告 出張工程表について
9	平成 26 年 12 月 26 日	長期研修の予定について 部署研修会について

10	平成 27 年 1 月 23 日	研修旅費・学術助成費について 回復期病棟連絡協議会研究大会予演会について 学術奨励賞について
11	平成 27 年 2 月 27 日	脳卒中学会予演会について 戦略的人材育成費・実習生受け入れについて
12	平成 27 年 3 月 27 日	平成 27 年度助成費について報告 戦略的人材育成費について検討

#### 4. 活動要約

- ・ 出張旅費と学術助成の見直しを行った。
- ・ 戦略的人材育成の基準を作成した。
- ・ 施設間勉強会をリハビリテーションケア勉強会と命名して、継続的に実施していくこととした。

## 施設運用委員会

### 1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)における施設運用についての意見及び要望について検討し、その適正化を図ることを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	岩田 学 (副院長)
メンバー	清野 聡 (医局長)
	三國谷 恵美子 (看護部長)
	横山 純子 (副看護部長)
	三浦 順子 (リハビリテーション部技師長)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	小林 正志 (事務部長)
	奈良 富士子 (庶務課長)

### 3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 9 日	①夜勤者の仮眠室について②部屋の点検票について③施設内案内板について審議検討した。
2	平成 26 年 5 月 26 日	①夜勤者の仮眠室について②部屋の点検票について審議検討した。
3	平成 26 年 6 月 11 日	①夜勤者の仮眠室について②部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。
4	平成 26 年 7 月 9 日	①夜勤者の仮眠室のベッドについて②4病棟食堂について③用途変更について④部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。
5	平成 26 年 9 月 3 日	①夜勤者の仮眠室のベッドについて②D I 室について③部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。
6	平成 26 年 10 月 1 日	①夜勤者の仮眠室について②3・4病棟バックスペースの洗面台撤去について③感染症疑いの外来患者に対する診察室について④夜勤者の食事場所について審議検討した。
7	平成 26 年 11 月 5 日	①用途変更について②部屋の点検票について審議検討した。
8	平成 26 年 12 月 3 日	①用途変更・改修工事後について②部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 器具消毒剤を使用する2部屋の換気扇設置について衛生委員会に審議を依頼した。
9	平成 27 年 1 月 7 日	①女性医師更衣室について②部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 衛生委員会より開閉可能な窓がある部屋は換気扇の必要なし、窓のない部屋は使用頻度を考慮し、場所を変更する事であった。

10	平成 27 年 2 月 4 日	①女性医師更衣室について②男性医師ロッカーの移動について ③院内感染対策室（仮称）の設置について審議検討した。
11	平成 27 年 3 月 11 日	①エキスパンションジョイントについて②2・3・4病棟のナース スコールについて③3・4病棟の洗面台について④部屋の点検後 の改善・対策について審議検討した。

#### 4. 活動要約

- ・夜勤者の仮眠室、休憩室の改修と運用について審議検討した。
- ・各部屋の責任者を選任し年2回の点検および改善・対策をした。
- ・部屋の用途変更、部屋の場所選定（D I 室、院内感染対策室、診察室5、女性医師の更衣室）について審議し理事長に上申した。
- ・4階の食堂の改修、3・4病棟バックスペースの洗面台撤去について審議し理事長に上申した。
- ・施設内外の案内板を整備した。

## 広報委員会

### 1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)の医療情報の広報を的確に推進するため、センターに広報委員会(以下「委員会」という。)を置く。

### 2. 構成員

委員長 岩田 学 (副院長)  
メンバー 目時 典文 (内科副部長)  
三國谷 恵美子 (看護部長)  
三浦 順子 (リハビリテーション部技師長)  
奈良 富士子 (庶務課長)  
鳥谷部 翔 (薬剤室副室長)

### 3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 27 日	今年度の目標を 1. ホームページ(職員専用ページ)の充実を図る。2. 年報の作成。3. 市民公開講座の開催とした。
2	平成 26 年 5 月 26 日	・ホームページについて、新人紹介を職員専用ページに掲載、職員の閲覧状況調査実施の報告があった。 ・年報についての進捗状況報告があった。 ・市民公開講座についてセンター開設 10 周年記念事業として位置づけの方針説明。
3	平成 26 年 6 月 23 日	・年報について資料が揃った段階で委員長に提出、9 月完成予定で進めることになった。 ・市民公開講座について内容「講義」「パネルディスカッション」「個別相談」で決定。啓蒙活動としてノボリを作成した報告があった。
4	平成 26 年 7 月 28 日	・年報についての進捗状況報告があった。 ・市民公開講座について実行委員会の開催、クリアファイル・ポケットティッシュ配布等の進捗状況報告があった。
5	平成 26 年 8 月 25 日	・ホームページについて、職員専用ページの更新、公開講座の情報提供掲載の報告があった。 ・年報についての進捗状況報告があった。 ・公開講座ポスターの完成報告があった。
6	平成 26 年 10 月 27 日	・年報について作業継続中の報告があった。 ・公開講座について盛況に終えた。118 名の参加、継続の要望があった。
7	平成 26 年 11 月 17 日	・年報について、業績の分類と書式の統一の報告があった。 ・公開講座について次年度も継続で決定。

8	平成 26 年 12 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについて、職員の記事の中からアクセス数が多かった人を忘年会で表彰をした等の現況報告があった。</li> <li>・年報について、仮の物ができた。委員長が修正を入れていくことになった。</li> </ul>
9	平成 27 年 1 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについて、メンバー変更の話題があった。</li> <li>・年報について業績部分に一部修正が必要との報告があった。</li> </ul>
10	平成 27 年 2 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについて、定期的な更新、WG のメンバーを 2 年位で半分変更していく旨の報告があった。</li> <li>・年報についての進捗状況報告があった。</li> <li>・公開講座について、7 月 26 日又は 9 月 27 日の開催。4 月に実行委員会開催の報告があった。</li> <li>・高次脳機能障害の家族会からホームページ上の研修会案内の場所をもっと分かりやすくして欲しいと要望があるので検討。</li> </ul>
11	平成 27 年 3 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについて、充実を図ること、メンバー変更予定の現況報告があった。</li> <li>・年報について、PDF にしてから広報委員にみてもらうことにした。</li> <li>・センター 10 周年記念式典を平成 27 年 9 月 6 日開催とする報告があった。</li> </ul>

#### 4. 活動要約

- ・今年度の目標、「ホームページの充実」「年報の作成」「公開講座」を掲げ審議検討した。
- ・ホームページは、職員専用ページの充実が図られ、定期的な更新をした。
- ・年報は、次年度に公開となった。
- ・市民公開講座を平成 26 年 10 月 5 日、弘前市民文化交流館大ホールにて開催した。  
参加者 118 名。

## 患者サービス委員会

### 1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける各部門が連携協調を図り、業務の円滑な処理および効率性を確保することにより、病院を利用する患者および患者の家族等（以下患者等）へのサービス向上に資することを目的とする。

### 2. 構成員

委員長	横山 純子（看護師長）	
メンバー	鎌田 孝篤（副院長）	松本 茂男（副院長）
	中田 智子（看護師長）	蒔苗 敦子（看護主任）
	長内 恵（看護師）	金崎真紀子（看護師長）
	小田桐千代（看護師長）	佐藤 奈奈（看護主任）
	工藤 正弘（看護主任）	鈴木 敦子（看護師）
	村上 朋子（看護師）	吉田 美奈（看護主任）
	佐藤 志穂（リハ主任）	藤田 由香（リハ師長）
	工藤 慎（医療相談室主任）	外崎 葵（言語聴覚士）
	工藤 雅令（事務部次長）	関 晃治郎（診療放射線技師）
	柳沢 緑（医事課）	成田 幸英（看護主任）

### 3. 活動要約

#### ・患者サービス委員会：

毎月第2木曜日 15：30～16：00 メンバー 21名

#### ・活動内容

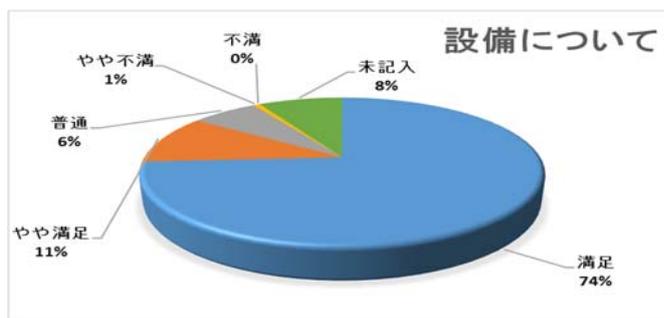
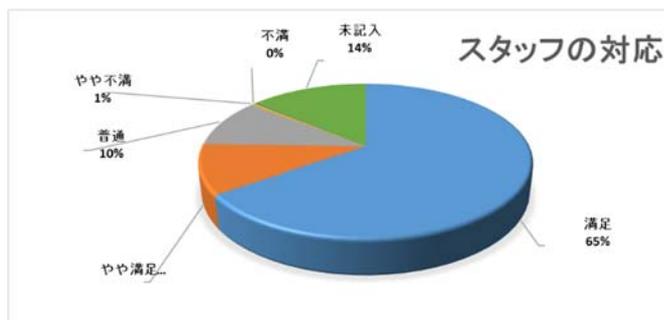
職員の患者等への対応サービスの向上に関すること  
患者等の院内活動にかかるサービス向上に関すること  
患者等からの苦情・意見の収集および対応に関すること  
ボランティアの受け入れおよび活動内容に関すること  
その他の医療サービスに関すること

#### ・主なイベント

開催日	内容
平成26年5月13日	接遇研修（ファイザー株式会社 伊藤智之様）
平成26年5月21、22日	春の清掃活動（ゴミ拾い）
平成26年6月下旬	七夕飾り

・その他の対応

退院時患者アンケート 回収率 42% 昨年度より 10%アップ



意見箱から

- ◆給食食器に米粒が付着しやすい⇒次年度の検討
- ◆食堂の椅子を引く音 ⇒椅子の足底へフェルト貼付
- ◆パソコン持ち込み⇒利用規約作成
- ◆トイレ人感センサー⇒トイレ内に案内表示
- ◆トイレトペーパー⇒片手動作を考慮し材質変更
- ◆接遇 ⇒接遇マニュアル作成 ロッカー室内姿見設置

・平成 26 年度まとめ

昨年度まで退院時アンケート回収率が 30%前後で推移していた。配布タイミングを各部署意識したことにより 40%の回収率となった。スタッフ対応については、満足度は若干向上しているが、依然アンケート内容では、私語、言葉使い、患者・家族を思いやるといった接遇に関する意見があり、接遇、マニュアルを作成した。次年度はマニュアル浸透に向け、介入していく必要がある。

委員会では、アンケートおよび BOX に入れられた意見を中心に対応しているが、その他のいろいろな声にも耳を傾けていきたいと考えている。

皆様の気づきや患者様の声を委員へ伝えていただき、対応していく。

## ワークライフバランス推進委員会

### 1. 活動目的

平成22年度より日本看護協会と都道府県看護協会が協働し、WLB実現に取り組む医療施設を支援する事業に参加し、労働環境が改善され、働き続けられる職場づくりを目指す。

### 2. 構成員

委員長 三國谷恵美子（看護部長）  
 メンバー 小笠原 美幸（看護師長） 佐藤 奈奈（看護師主任）※部署代表兼務  
 奈良 富士子（庶務課長） 工藤 博人（企画運営課長）  
 工藤 育子（リハ主任）

### 3. 活動記録

		内 容
1	平成26年8月8日	昨年度の評価（H26 インデックス調査）に基づき事業3年目アクションプラン確認 情報交換会（自施設の問題・課題等話し合い） 三國谷恵美子（看護部長）発表
2	平成26年4～6月 7～9月 10～12月 平成27年1～3月	3ヶ月ごとに計4回 PDCA サイクル様式に沿って取り組み状況を記入、看護職のワークライフバランス推進ワークショップにシートで提出、報告
3	平成26年10月30日	施設訪問指導2名来訪（青森県健康福祉部・青森県看護協会） 現状報告に対し、指導・アドバイスを受ける
4	平成27年2月1日	公開講座 3年間の取組の発表・総評 小笠原美幸（看護師長）発表
5	平成27年5月13日	平成24年度から「看護職のWLB推進ワークショップ事業」に参加した当施設を含む県内5施設に、日本看護協会から「看護職のWLB推進カンゴサウルス賞」が贈られる ワークライフバランス推進委員会を代表し小笠原美幸（看護師長）が東京青山ダイヤモンドホールで行われた授賞式に出席

定例推進委員会 月1回 第4週木曜日 16:00

インデックス調査 年1回（3回目）

### 4. 活動要約

- ・W・L・B推進事業参加3年目で、委員会としての活動は区切りとする。今後は問題、課題毎にワーキンググループ活動で対応予定。
- ・夜勤免除、日勤限定者等を考えるワーキンググループを立ち上げる。  
師長会を中心に実態調査を行う予定
- ・部署代表者委員会に看護職代表者を通じて意見要望を伝える。懸案事項は引き続き検討していただけるよう継続して働きかけて協働を図る。

## NST(Nutrition Support Team)

### 1. 活動目的

本チームは、一般法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける、入院患者の栄養の向上と維持のために活動するものである。

### 2. 構成員

リーダー	佐々木都子（内科副部長）				
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤室副室長）	阿部 早苗（薬剤師）	山内めぐみ（臨床検査技師）		
	今井 真子（専任看護師）	佐藤 志乃（看護師）	木村 美和（看護師）		
	高阪 理恵（専任看護師）	横濱 岳（看護師）	齋藤 恵（看護師）		
	伊藤 光沙（看護師）	石黒 智子（看護師）	原子美喜子（看護師）		
	加藤 早苗（看護師）	村上 直美（看護師）	石黒 智子（看護師）		
	千葉 順子（看護師）	池上友紀子（言語聴覚士）	宮古 郷平（理学療法士）		
	斎藤 信一（リハ主任）	佐々木哲裕（医事課）	藤田 佳子（管理栄養士）		
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	成田 笑美（医療相談員）			

### 3. 活動記録

1病棟	毎週月曜日	13:00～
2病棟	毎週金曜日	13:00～
3病棟	月1回第2木曜日	16:00～
4病棟	月1回第2木曜日	16:00～
5病棟	月1回第4木曜日	16:00～

#### ▼NST評価件数

	1病棟	2病棟	3病棟	4病棟	5病棟
4月	22	37	10	8	6
5月	13	32	14	6	8
6月	26	24	11	6	6
7月	15	21	8	8	5
8月	14	23	8	4	6
9月	15	22	4	4	9
10月	13	29	4	4	3
11月	7	23	11	5	10
12月	21	29	12	3	2
1月	15	20	10	7	5
2月	8	14	8	3	7
3月	27	25	8	3	8
合計	196件	299件	108件	61件	75件

#### 4. 活動要約

- N S T 自体は加算算定の対象ではなくなったが、食事不振、栄養不良者に関しての評価は継続して実施した。
- 一般病棟での N S T 対象者について、回復期病棟への転棟後も評価しているが、一般病棟では問題なかったが、回復期病棟転棟後食欲不振になった患者の抽出なども継続して行われた。
- 6月4日、N S T メンバー対象にビデオ勉強会「半固形材による栄養管理」を実施し、20名の参加あり。
- 1月15日 N S T メンバー対象の勉強会「高カロリー輸液について」を実施し、15名の参加あり。

## ICT(Infection Control Team)

### 1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける感染管理を担当する専門職によるグループで、院内ラウンドなどの活動を通して院内感染防止を目的として活動するものである。

### 2. 構成員

リーダー	清野 聡 (医局長)		
メンバー	萩井 譲士 (内科副部長)	出町真知子 (看護師)	佐藤 登康 (作業療法士)
	漆沢 修治 (看護師)	毛利 暢子 (看護主任)	久米田一喜 (薬剤師)
	工藤 直美 (看護師)	三上 夏美 (看護師)	倉内 寿孝 (薬剤師)
	松川 千尋 (看護師)	棟方 直子 (看護師)	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	小笠原美幸 (看護師長)	板垣 充子 (看護師)	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	渡部 牧子 (看護師)	渋谷 知樹 (看護師)	蒔苗 寿治 (医事課長)
	大川 麻美 (看護主任)	長谷川国俊 (リハ士長)	齋藤 理恵 (医事課主任)
	赤石富士子 (看護師)	藤田 幸江 (言語聴覚士)	

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 26 年 4 月 10 日	ICT活動の見直し 院内感染防止対策マニュアルの見直し ラウンド評価
2	平成 26 年 5 月 15 日	院内感染防止対策マニュアルの見直し ラウンド評価
3	平成 26 年 6 月 12 日	院内感染防止対策マニュアルの見直し ラウンド評価 医療廃棄物マニュアル作成 MRSA感染報告書の運用開始
4	平成 26 年 7 月 10 日	院内感染防止対策マニュアルの見直し ラウンド評価 院内感染疑い(MRSA)報告
5	平成 26 年 8 月 7 日	院内感染防止対策マニュアルの見直し 針刺し事故時の初期発動パス修正 ラウンド評価
6	平成 26 年 9 月 11 日	院内感染防止対策マニュアルの見直し ディスポ駆血帯導入について スキンローションの検討 ラウンド評価

7	平成 26 年 10 月 9 日	院内感染防止対策マニュアルの見直し ラウンド評価
8	平成 26 年 11 月 13 日	導尿時の陰部消毒剤について ラウンド評価
9	平成 26 年 12 月 11 日	ラウンド評価 感染報告レポート様式変更案検討 ルミテスター導入について
10	平成 27 年 1 月 15 日	院内感染症患者（インフルエンザ）報告 ラウンド評価
11	平成 27 年 1 月 21 日 【臨時】	カルバペネム耐性緑膿菌感染防止対策
12	平成 27 年 1 月 22 日 【臨時】	インフルエンザアウトブレイク対策 第 1 回
13	平成 27 年 1 月 27 日 【臨時】	インフルエンザアウトブレイク対策 第 2 回
14	平成 27 年 2 月 12 日	院内感染防止対策マニュアルの見直し 導尿時の陰部消毒剤変更 ラウンド評価
15	平成 27 年 3 月 12 日	1 年間の振り返り 平成 27 年度の課題検討

#### 4. 活動要約

- ・院内ラウンドを実施し、それを評価し感染対策委員会にて提言
- ・院内感染対策マニュアルの見直し、作成
- ・手洗い石鹸・手指消毒剤の見直し、変更、新規採用
- ・院内感染発生時、臨時会議を開き対応を検討

## 脳ドックワーキンググループ

### 1. 活動目的

「脳ドック」を希望する対象者のニーズに応える。もって、根治の難しい神経疾患の発生を予防する。

### 2. 構成員

リーダー 内沢 隆充（脳神経外科部長）  
メンバー 目時 典文（内科副部長） 萩井 譲士（内科副部長）  
小田桐 千代（看護師長） 川村 隆行（診療放射線技師）  
阿保 文子（臨床検査技師長） 蒔苗 寿治（医事課長）  
立林 修（医事係長） 工藤 博人（企画運営課長）

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成 26 年 4 月 1 日	消費税増税に伴い料金に関して検討 標準料金と MRI 中止時について値上げしない
2	平成 26 年 5 月 14 日	公立学校共済組合と「脳検診事業」の契約締結
3	平成 26 年 8 月 1 日	一般財団法人 日本予防医学協会と「脳ドック」の契約 締結
4	平成 26 年 11 月 13 日	一般検診者の受入人数について運用変更

### 4. 活動要約

- ・脳卒中の早期発見と予防に貢献すべく、平成 26 年度も引き続き事業を継続
- ・今年度より公立学校共済組合と「脳検診」の委託契約を締結（定員 80 名）
- ・日本予防医学協会と「脳ドック」の委託契約を締結
- ・将来的に日本脳ドック学会認定施設の取得を目指す

- ・平成 26 年度の実績について

実施件数：124 件

未実施件数：8 件（理由）

金属有でのお断り（インプラント、ステント）

閉所恐怖症（当日検査中）

他検査中（妊娠の可能性）

申込はあったが（問診票もらった）不通

## 口腔ケアワーキンググループ

### 1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける入院患者の口腔衛生の向上と維持のために活動するものである。

### 2. 構成員

リーダー	松山 哲子（言語聴覚室長）	
サブリーダー	吉岡 百合子（作業療法士）	
メンバー	阿部 麻菜美（言語聴覚士）	佐藤 登康（作業療法士）
	小堀文美子（歯科衛生士）	齋藤 美知佳（看護師）
	工藤 慎也（看護師）	稲葉 千尋（看護師）
	白川 順子（看護助手）	白戸 美千代（看護師）
	伊藤 敏子（看護師）	能登谷 太地（看護師）
	大谷 輝美（看護師）	木村 ゆか子（准看護師）
	工藤 一子（准看護師）	五十嵐 緑（准看護師）
	小坂 冬美（看護師）	成田 雅子（看護師）
	芳賀 沙織（准看護師）	

### 3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成 26 年 4 月 10 日	アセスメントシートの問題点確認と修正 今年度活動計画の検討
2	平成 26 年 5 月 8 日	歯磨き教室運用の問題点確認と歯磨き指導方法の再検討
3	平成 26 年 6 月 5 日	歯磨き指導方法の検討
4	平成 26 年 7 月 3 日	歯磨き個別指導の運用作成とアセスメントの運用変更
5	平成 26 年 8 月 7 日	病棟ラウンドと結果評価（中央棟）
6	平成 26 年 9 月 4 日	病棟ラウンドと結果評価（東棟）
7	平成 26 年 10 月 2 日	アセスメントシートの追加項目確認と運用状況評価
8	平成 26 年 11 月 13 日	歯磨き個別指導の運用状況評価 リハケア研究会報告とメディカル勉強会の内容検討
9	平成 26 年 12 月 4 日	アセスメントシートテンプレートの修正 歯磨き個別指導の運用状況報告と指導
10	平成 27 年 1 月 8 日	歯ブラシの選択方法検討とブラッシングの勉強会 歯科医師口腔ケア手技指導の運用検討
11	平成 27 年 2 月 5 日	歯科医師口腔ケア手技指導開始

### 4. 活動要約

- ・ 口腔ケアアセスメントの運用を一部修正し、ケア方法決定につなげた。
- ・ 歯磨き自立者への指導方法を細分化したことで、ケアの充実を図った。
- ・ 院内をラウンドして評価を重ね、一定の成果が得られた。
- ・ 歯科医師による病棟指導を開始し、口腔ケア手技の向上につとめた。

## 編 集 後 記

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第2号（平成26年度）をお届けいたします。

第2号では、診療実績の部分で、経時的な推移がわかりやすいように平成26年度単年ではなく、過去2年分のデータも併せて掲載いたしました。

さて平成26年度は、脳卒中センター開設10周年を記念して、10月に市民公開講座が開催され、多くの市民の方にご参加いただきました。また財団事業である弘前大学寄附講座、高血圧・脳卒中内科学講座の業績として、当センター萩井内科副部長が筆頭著者の研究論文が、英文雑誌のStrokeに掲載されたことが、特筆すべき出来事であったと思います。

平成27年6月に年報第1号（平成23年度～平成25年度）が発刊され、年報フォーマットが出来たことで、今回このような短期間での年報第2号の発刊に繋がったものと考えています。今後もぜひ定期発刊に努めていきたいと思っております。

最後に、年報第2号の発刊にご協力いただいた職員各位に感謝申し上げます。

広報委員長 岩田 学

### 【編 集】弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 広報委員会

委員長	岩 田 学	（副院長）
委 員	目 時 典 文	（内科副部長）
	三 國 谷 恵 美 子	（看護部長）
	三 浦 順 子	（リハビリテーション部技師長）
	鳥 谷 部 翔	（薬剤室副室長）
	立 林 修	（庶務課長補佐）

